

大坂蔵屋敷の 建築史的研究

植松清志編著

谷直樹・岩間香・中島節子執筆

「二〇一五年四月刊行」

江戸時代、大名・旗本などの諸領主が、貢租米や領内の特産品を販売・貯蔵するために設置した蔵屋敷について、建築史的な観点から蔵屋敷の変遷、建築構成・空間構成、居住性などを研究する。史料篇として現存する蔵屋敷絵図のトレース図面を網羅的に掲載。



▼ B5判・二五八頁／定価 本体 四、八〇〇円（税別）

ISBN 978-4-7842-1724-3

○ 内容目次 ○

序章 大坂蔵屋敷の建築史的研究

第一章 西国大名の大坂蔵屋敷

——佐賀藩大坂蔵屋敷の成立と変遷——

初期の佐賀藩大坂蔵屋敷／江戸時代の佐賀藩大坂蔵屋敷／御屋形／佐賀藩大坂蔵屋敷の様相

第二章 西国大名の大坂蔵屋敷

——徳島藩大坂蔵屋敷の建築構成——

徳島藩大坂蔵屋敷の変遷／大坂蔵屋敷の建築構成／徳島藩大坂蔵屋敷の様相

第三章 西国大名の大坂蔵屋敷と京都・伏見屋敷

——高知藩における上方屋敷の比較研究——

高知藩屋敷の変遷と指図／敷地規模と建築構成／御殿／長屋（役宅）／高知藩における大坂蔵屋敷と京都屋敷・伏見屋敷

第四章 奥羽諸藩における上方屋敷の変容

——弘前藩・秋田藩の上方蔵屋敷——

弘前藩における上方蔵屋敷の成立と展開／秋田藩における大坂蔵屋敷の成立／奥羽諸藩の蔵屋敷の建築構成

第五章 大坂蔵屋敷の鎮守社と祭祀

大坂の年中行事と蔵屋敷祭祀／佐賀藩大坂蔵屋敷の稲荷祭／高知藩蔵屋敷と土佐稲荷／蔵屋敷の鎮守社と祭祀の諸相／作り物の流行と蔵屋敷祭祀の経済効果／近代における蔵屋敷祭祀の行方

第六章 「よと川の図」と福岡藩蔵屋敷

「よと川の図」と中之島の蔵屋敷／「よと川の図」の景観年代／福岡藩大坂蔵屋敷と参勤交代／「よと川の図」の制作意図と価値

第七章 畿内小藩の大坂蔵屋敷

——小室藩大坂蔵屋敷の成立と解体——

小室藩大坂蔵屋敷／小室藩大坂蔵屋敷の変貌／小室藩大坂蔵屋敷の特質

第八章 幕末における大坂蔵屋敷の新傾向

——松代藩大坂蔵屋敷——

松代藩大坂蔵屋敷／松代藩大坂蔵屋敷の特質

第九章 幕末における大坂蔵屋敷の新傾向

——御三卿清水家の大坂蔵屋敷——

御三卿清水家と史料／清水家大坂蔵屋敷／敷地の状況／蔵屋敷普請／屋敷の構成／清水家大坂蔵屋敷の特質

結章 大坂蔵屋敷の成立と展開

大坂蔵屋敷の変遷／蔵屋敷設置藩と地域、類型化

うえまつ・きよし…1952年生。大阪市立大学大学院生活科学研究科生活環境学専攻博士課程（後期）終了、博士（学術）。大阪人間科学大学人間科学部教授を経て、現在修成建設専門学校建築学科教授。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

（京都 取引コード 3402）

冊数	冊	大坂蔵屋敷の建築史的研究		本体4,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1724-3
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） ☐ 代引（書籍代＋送料を現品と引き替えにお支払い）				

本書HPのQRコード

書店番線印

※大工頭中井家建築指図集 中井家所蔵本 谷直樹編著

江戸幕府の京都大工頭を代々勤めてきた中井家の伝来史料には、同家の職務に対応して、城郭、武家屋敷、内裏、公家屋敷、社寺などの指図があり、さらに洛中図・町絵図・橋図など土木関係の絵図も豊富(2011年重文指定)。図版517点を大判で収録し、総論と各個解説を付す。
▶B4判・360頁／本体18,000円(税別) ISBN4-7842-1148-9

近世上方大工の組・仲間

川上貢著

中井家による五畿内・近江六か国大工組支配の仕組みのなかで、各地に組織・編成されていた大工組に焦点をあて、その成立、運営と変遷、さらには分裂と再編を、近世前期にまでさかのぼる新出史料をもとに検証した論集。
▶A5判・402頁／本体9,000円(税別) ISBN4-7842-0922-0

京・近江・丹後大工の仕事 近世から近代へ

建部恭宣著

江戸時代から明治・大正にかけての京・近江・丹後における大工の活動状況を明かした労作。寺院造営における大工の仕事、就労状況、町大工の構成と作事棟梁制度の変遷、幕末の藩士住居の図面と用材など、史料の精査に基づいて大工活動の実態と近代化への歩みを考察する。
▶A5判・270頁／本体5,500円(税別) ISBN4-7842-1282-5

※建築史論聚

中村昌生先生喜寿記念刊行会編

日本建築の歴史的伝統を深く把握してこそ、新しい時代の建築を創造できるとした建築史学の泰斗・中村昌生氏(京都工芸繊維大学名誉教授)の喜寿を記念し、薫陶を受け研鑽を重ねてきた研究者たちがオリジナル論文を持ち寄る。寺社建築・茶室・建築生産史・都市史・近代建築についての15篇。
▶A5判・590頁／本体9,000円(税別) ISBN4-7842-1202-7

日本庭園像の形成

片平幸著

「日本庭園」は西洋でどのように理解され、解釈されたのか、そして日本はそれに対してどのように反応したのか。19世紀末から20世紀初頭の欧米人の日本庭園論、それへの日本人の反応、という両者の「往還」を丁寧にとり、1930年代に至って日本庭園の「独自性」が規定されていく過程を追う。
▶A5判・240頁／本体4,000円(税別) ISBN978-4-7842-1718-2

大坂城と城下町

渡辺武館長退職記念論集刊行会編

前大阪城天守閣館長渡辺武氏の退職を記念した22名による論文集。豊臣大坂城時代はもちろん、難波宮、大坂(石山)本願寺から現代にいたるまで、多彩な視角から大坂城と都市大阪を考察する。
【内容】秀吉の大坂城拡張工事について／大坂城内の大溝／徳川幕府の大坂城天守閣再考／小室藩大坂蔵屋敷の変貌 ほか
▶A5判・436頁／本体8,800円(税別) ISBN4-7842-1062-8

住友の歴史 [全2巻]

朝尾直弘監修／住友史料館編

近世初頭から銅の精錬を業とし、その後金融・貿易などをも手がけ、近代の財閥につながる豪商の典型である住友の歴史をわかりやすく紹介。下巻では財閥解体までの近代史を中心に、大阪での文化貢献等にも言及。連綿と受け継がれる住友精神の源泉がここにある。
上巻▶46判・286頁／本体1,700円(税別) ISBN978-4-7842-1703-8
下巻▶46判・322頁／本体1,700円(税別) ISBN978-4-7842-1762-5

経済史再考 日本経済史研究所開所70周年記念論文集

徳永光俊・本多三郎編

開所70周年を記念し、経済史研究の方法論5篇、日本国内外の経済史・経営史を実証的に分析した24編を収録。【内容】堺と長崎／江戸初期における信用貨幣の生成／近世地方金融資本「石州銀」と九州／近江商人正野玄三家の事業と奉公人／近世中後期の有毛検見制の仕法について／薩摩藩における奴婢刑の一考察／幕末史再考 ほか
▶A5判・620頁／本体12,000円(税別) ISBN4-7842-1153-5

中井家大工支配の研究

谷直樹著

中井家大工支配の初期形態から支配の確立・変容をたどる。
【内容】中井家大工支配の成立過程／農村大工の大工役と諸役免除／公儀作事における中井家の職務と財政構造／中井家支配下の棟梁衆および家中の変遷／中井家六カ国大工支配の整備と再編成／中井家大工支配の成立と展開
▶A5判・340頁／本体7,800円(税別) ISBN4-7842-0707-4

近世京都の町・町家・町家大工

日向進著

「仮屋」のようにさりげなく組み立てるための工夫を積み重ねてきたのが京都の建築的伝統であった。本書は、こうした近世における京都町家の形成と展開の過程を事例として、町家が住居形態として一定の類型を保持し、存続してきた背景としての建築的、技術的、社会的、都市的な要因の解明を試みる。
▶A5判・340頁／本体7,800円(税別) ISBN4-7842-0984-0

近世妙心寺建築の研究

平井俊行著

京都府教育庁文化財保護課の修理技術者として、妙心寺建築物の保存修理に携わるなかで積みかさねてきた研究をまとめた一書。臨済宗妙心寺派本山の個々の建築について、本山や塔頭に残る中世～近世の古文書や棟札の解説、実測のみならず、それぞれの建造物の行事での利用状況まで分析し、近世妙心寺建築成立の意義を検討する。
▶B5判・376頁／本体9,500円(税別) ISBN978-4-7842-1689-5

春秋 京大和翠紅館 平安から平成まで 京の雅

木村幸比古・中根史郎・中村昌生著

京都の老舗料亭京大和がある東山霊山のもととは、古くからの聖地であり、風光明媚な仙郷であった。その歴史・庭・建物を、カラー口絵と解説で紹介。特に、江戸時代の翠紅館の姿そのままに大正時代に建てられた建物や敷内流の茶室について、和建築の第一人者である中村昌生氏が、多数の図面とともに詳述する。
▶B5判・80頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1417-4

『作庭記』と日本の庭園

白幡洋三郎編

日本最古の作庭理論書として知られる『作庭記』には、中世の人々の作庭技術のみならずその背後に宿る思想・美意識が反映している。そうした着想から企画され、さまざまな専門分野からの意見を出し合い、議論し、「日本庭園を通じた古代・中世的自然観」の発見を試みた国際日本文化研究センターのシンポジウム「日本庭園と作庭記」の成果。
▶A5判・364頁／本体5,000円(税別) ISBN978-4-7842-1746-5

近世都市和歌山の研究

三尾功著

御三家紀州徳川家の城下町として発展した近世都市和歌山の城下の変遷を、長年和歌山市史編纂に携わってきた著者が豊富な史料に基づき考証する。【内容】創建和歌山城について／和歌山城の構造／和歌山城再建工事について／和歌山城追廻門・赤門考／城下町和歌山の成立と拡大／町割にみる都市計画／武家町と町人町について ほか
▶A5判・376頁／本体7,000円(税別) ISBN4-7842-0825-9

近世琵琶湖水運の研究

杉江進著

近世における堅田の変貌、後背地との結びつきにより分けられる三地域(「諸浦の親郷」(堅田・大津・八幡)・湖北四ヵ浦・彦根三湊)の対抗関係、船の航行と船支配の関係という三つの視点を基軸に、近世前期琵琶湖水運の構造と特質、廻船規定、諸浦の盛衰を取り上げて論究する。
▶A5判・464頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1551-5

※京都 高瀬川 角倉了以・素庵の遺産

石田孝喜著

江戸時代初期、角倉了以・素庵父子によって開削され、京都の中心部と伏見港を結んだ運河・高瀬川に限りない愛着と関心を持って30年余り、歴史に埋もれた史料をねばり強く探索し、高瀬川の流れとともに研究を続けてきた著者が、運河開削の歴史をたどり、舟入や橋の変遷など、多方面から歴史と文化のすがたを描く。図版多数。
▶A5判・250頁／本体2,200円(税別) ISBN4-7842-1253-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。